

九、七、五、三、一、
十、八、六、四、二、

カラスガ

ナイテイキマス。

一、二、三、四、五、

六、七、八、九、十。

十、六、ナイテイキマス。

重文開智学校資料

ヲハリ。

明治三十六年七月二十八日印刷
明治三十六年八月一日發行
明治三十六年十二月七日翻刻印刷
明治三十六年十二月十日翻刻發行

尋常小學校讀本發賣

定價金六錢五厘

著作權所有

發行者兼

文部省

發行者刻

水野慶次郎

東京市日本橋區通油町拾八番地

印刷者

水谷景長

東京市小石川區久堅町百〇八番地

印刷所

會社博進社

東京市小石川區久堅町百〇八番地

明治三十一年十二月一日
文部省檢査濟

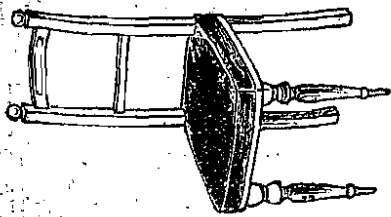
發行所

東京市日本橋區新右衛門町拾六番地

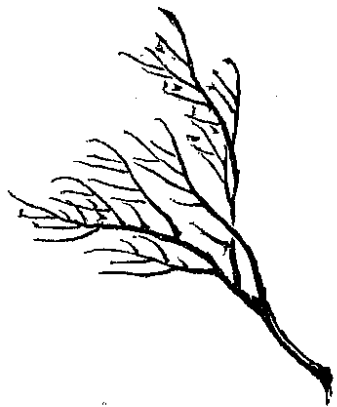
日本書籍株式會社

29

KUB	2	1-16
-----	---	------



1



2

モクロク。

ダイ一	タンポポ。.....一	ダイ十一	ホタル。.....三十
ダイ二	サクラ。.....三	ダイ十二	せんたく。.....三十三
ダイ三	ナノハナ。.....五	ダイ十三	シボ。.....三十四
ダイ四	ツバメ。.....七	ダイ十四	日とにじ。.....三十七
ダイ五	ツバメトスズメ。.....十	ダイ十五	せみ。.....四十
ダイ六	アメ。.....十四	ダイ十六	あまがほ。.....四十四
ダイ七	コガハ。.....十六	ダイ十七	ウ。.....四十五
ダイ八	タケノコ。.....二十	ダイ十八	からすとばさぐさ。.....四十九
ダイ九	カシノキトタケ。.....二十三	ダイ十九	ブドー。.....五十一
ダイ十	うめのみ。.....二十八	ダイ二十	とけ。.....五十四

ダイ一 タンポポ。

タンポポ ノ ハナ ハ ノハナナド ニ

サキマス。

タンポポ ノ ハナ ハ

タイテイ、キイロ デス。

タンポポ ノ ハナ ハ

キク ノ ハナ ニ ニテサマス。

アル ヒ、オチヨ ガ、ウンドーハ テ、タン



131
1-3

あそぶ、こころ。が、こー が ひけた。
はや、かくて、まり、こま もつて。」



いろはにほくとちりぬるをわかよたれそ
つねならむらぬのおくやまけふこえてあ
たまゆめみしをひもせず

書を、はり。

明治三十六年九月一日 印刷
明治三十六年九月十三日 發行
明治三十七年一月十日 翻刻印刷
明治三十七年一月十三日 翻刻發行

尋常小學校本卷三

定價金六錢五厘

著作權所有

著作兼
發行者

文 部 省

翻 行 者 刻

水 野 慶 次 郎

東京市日本橋區通油町拾八番地

印 刷 者

水 谷 景 長

東京市小石川區久堅町百〇八番地

印 刷 所

會社博 進 社

東京市小石川區久堅町百〇八番地

明治三十七年一月八日
文部省檢査
濟查檢

東京市日本橋區新右衛門町拾六番地

發 行 所

日 本 書 籍 株 式 會 社

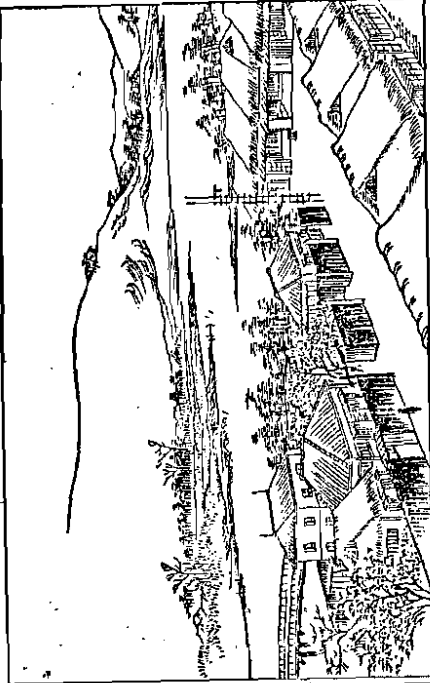
もくろく。

だい一	こたろーのむら。.....一	だい十一	かじまつのはなし。三十九
ダイ二	ウマトウシ。.....四	ダイ十二	アッノハナシ。.....三十九
だい三	富士山。.....七	ダイ十三	アッノハナシ。.....四十二
だい四	天長節。.....十	だい十四	ゆき。.....四十七
ダイ五	東京(一)。.....十四	だい十五	紀元節。.....五十一
ダイ六	東京(二)。.....十八	だい十六	てがみ(一)。.....五十四
だい七	ほーねんまつり。.....二十一	だい十七	てがみ(二)。.....五十七
だい八	がん。.....二十五	ダイ十八	神功皇后。.....六十
だい九	ねこのめ。.....三十	ダイ十九	奈良ノ大佛。.....六十四
だい十	そーじ。.....三十四	だい二十	とる。.....六十七

131
1
1-4
百村

だい一 こたろー の むら。

こたろー の 村 には、いゝ が、百五



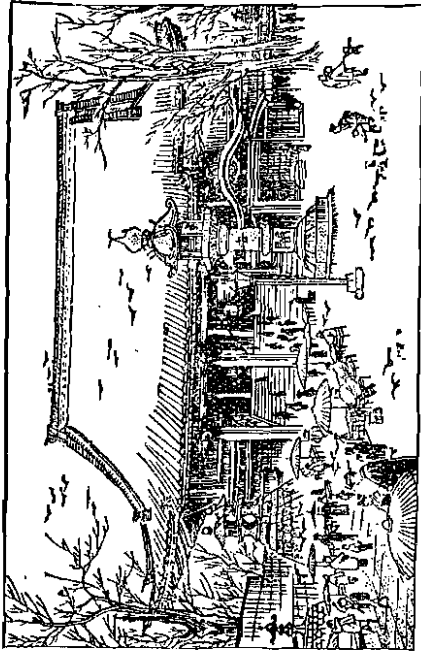
十けんほど、あります。

そのうちに、かはらやね
のいゝ が、三げん、あり
ます。

一けんは村役場で、あと
は學校と、巡査の駐在

寺

ガ アリマス。^{アサタケ}浅草 ニハ、^{アサタケ}浅草寺 ト イフ、
 リバナ オ寺 ガ アリマス。コノ エ ハ



ソノ オ寺 ノ エ デス。
 コランナサイ。トリ ガ、タク
 サン、トンデキマス。アレ ハ
 バト デス。

^{アサタケ}浅草 ノ キンジニハ、隅^{スミ}
 田川^{ダガハ} ト イフ 川 ガ アリ

花

マス。川 ノ ドテ ニハ、サクラ ノ 木
 ガ、タクサン、ナランデキテ、花 ノ サク
 コロ ハ、ココ モ、タイソー、ニギヤカ デ
 ス。

だい七 ほーなんまつり。

宮

つち の ゑ は おちよ の 村 の お宮
 です。お宮 の まく には、人 が、おほぜ
 い、こみあつてゐて、たいそー、にきやか て

それをして、
たくさん、とれた。

ことしは、お米が、

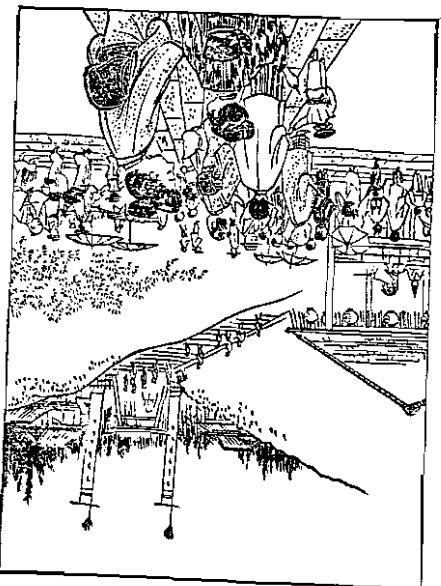
よ
てす。

てをひかれて、いきまして。あれはお
いらい、おなさん。女の子が、おあさん
に
おまうり。このてす。
たくさん、とれた。のを、いはて、する

女

米

ほーね、まうりと、いふ。の、お米が、
て、ほーね、まうりをしてある。の
か、ら、おちよの村の人が、お
お、めい、か、た、さん、と
て、い、い、も、も、
よ、い、か、げ、ん、に、い、ふ、て、
こ、と、し、は、あ、め、も、
す。



ほーねんきりり。

村 の ねんきりり。

えんきり、えんきり。

えんきり、えんきり。

ねんきり、えんきり。

ねんきり の えんきり

えんきり、えんきり。

ねんきり の えんきり

ねんきり
(あー)

ねんきり、えんきり。

えんきり は ねんきり。

ねんきり は ねんきり。

「はえん、えんきり。」

えんきり、えんきり。

えんきり、えんきり。

月

ある 月夜 の えんきり、えんきり。

えんきり、えんきり、えんきり、えんきり。

見た ので、たうそー、よかった。そし
て、「いほーび た。」と、うて、ちる に、うも
を やりました。ちる は、てうねうに、おし
き を、して、ちるまはし の、せなか に
のうて、うせせした。

1950年10月25日

明 治 三 十 七 年 二 月 廿 四 日 翻 刻 發 行
明 治 三 十 七 年 二 月 廿 一 日 翻 刻 印 刷
明 治 三 十 六 年 十 一 月 廿 八 日 發 行 刷
明 治 三 十 六 年 十 一 月 廿 六 日 印 刷

尋常小學讀本卷四

定價金七錢

著作權所有

發行者

省 部 長

日十二月二年七十三治明
濟查檢省部文

刻者行

中川勸助
大阪市東區博愛町四丁目百九番屋敷

印 刷 者

大橋光吉
東京市小石川區久堅町百〇八番地

印刷所

進 博 社
東京市小石川區久堅町百〇八番地

東京市日本橋區新右衛門町拾六番地

發行所

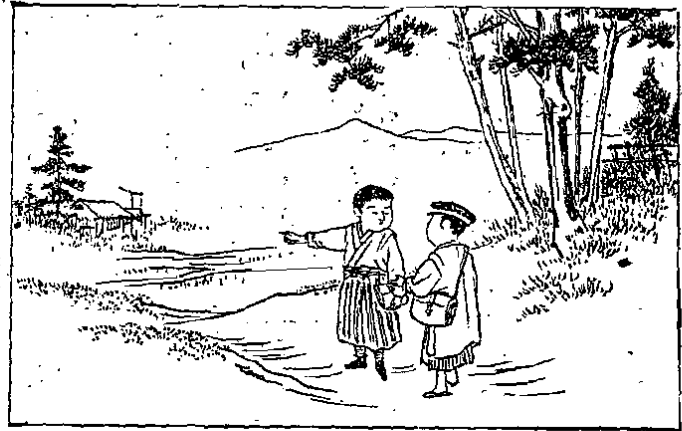
日本書籍株式會社

もくろく。

だ い 一	わたくしの家。	一	ダ イ 十 三	ウミバタ。	三 十 六
だ い 二	のあそび。	三	ダ イ 十 四	カウモリ。	三 十 九
ダ イ 三	水ノタビ。(一)	六	だ い 十 五	夕立。 ゆふだち	四 十 三
ダ イ 四	水ノタビ。(二)	八	だ い 十 六	雷のおちた話。 かみなり	四 十 五
だ い 五	むぎ。	十 一	ダ イ 十 七	軍艦。 せんかん	五 十
だ い 六	ひばりと人。	十 四	ダ イ 十 八	黄海ノ戦。 こうかい	五 十 二
ダ イ 七	蚕。 かいこ	十 八	だ い 十 九	秋の野原。 あき	五 十 五
だ い 八	たうろ。	二 十 一	だ い 二 十	山の上のみはらし。	五 十 九
ダ イ 九	ツエ。	二 十 二	ダ イ 二 十 一	太郎ノ町。	六 十 三
ダ イ 十	水ノコーヨリ。	二 十 七	だ い 二 十 二	大水。	六 十 五
だ い 十 一	汽車のたび。(一)	二 十 八	ダ イ 二 十 三	材木。 ぞうぼく	七 十 二
だ い 十 二	汽車のたび。(二)	三 十 二			

わたくしの家。

前 杉



むかふに、高い杉の木が見えませう。あそこ

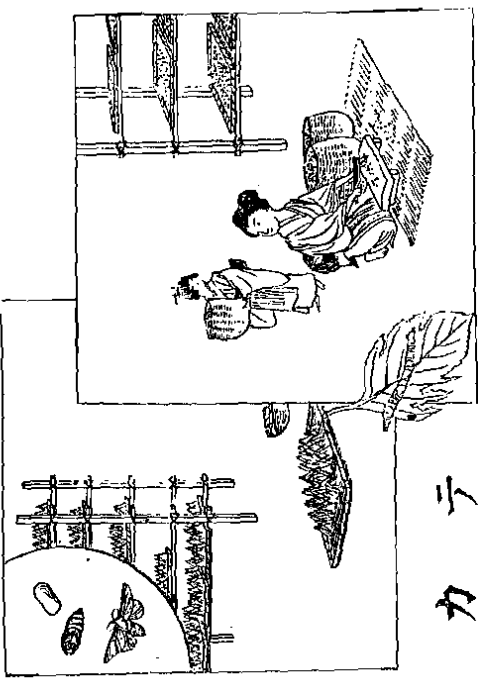
に、わたくしの家があります。
 家の前には、さくらの木とも
 もの木とがあります。さくら
 の木は、もう、つばみが大きく
 なつてゐます。
 わたくしの家には、おとうき

ひとはじぶんでするきにならんと、どのよ
ーなしごともできるものではありません。

タイ七 蚕^{カタコ}

カヒコハ、桑ノハラタビテ、大キクナル虫デ
ス。ハジメハ、小サナ虫デスガ、大キクナルト、
ミナサンノ手ノ指グヲキニナリマス。
蚕ノ小サナトキニハ、人ガ桑ノハラ、キツテ、ヤ
リマスガ、大キクナルト、キラズニ、ヤツタリ、扱

ニツイタマアデ、ヤツタリシマス。



蚕ハ、タイテイ、二十五日カ
ラ四十日グヲキノアヒダ、
桑ノハラタビテ、ソノアヒ
ダニ、四ド、ネムリマス。ソシ
テ、モウ、タビンヨ一ニナルト、
カラダガスキトホツテキマス。
サウナルト、人ガ蚕ヲマブシニウツシマス。

田をすかせ、

こては馬に

いまはいそがし、たうゑどき。

たいはたうゑ。

ハス。生糸ハ、ワカ^ニ國^ニサシテ、キハス。

生糸トイヒマス。生糸^ハノル^ニ練^ニナリ

蚕^ノ繭^ハカラハ、人^ノカ糸^ヲトリマス。糸^ヲ

サナ由ニナルマス。

ハス。コノタ糸^ガミ^ノ卵^ガハル^ト、タ^ノ小

ニ、ウミツケマス。コノ紙^ヲタ糸^ガミ^トイヒ

コノカ^ヲ紙^ノ上^ニハ、ナシテオク^ト卵^ヲ紙

テサハス。

ヲヤ^ツテ、出^ハマス。カハ、タ^ノチ^ニヨ^ニ

リハス。シ^ツテ、タ^ノモ^ノナ^ニサ^ツテ、繭^ハ

蚕^ハ、コノ繭^ノ中^ニサ^ナキ^トイ^フモ^ニナ

ケハス。コノス^ヲ繭^ハトイヒマス。

サウスルト蚕^ハ、口^ヲカラ糸^ヲ出^シテ、ス^ヲカ

苗

そこでは、苗を、

田に、うゑる。

すかせる。うゑる。

いそがしや。」

これから、たびたび、

田草とり。

しだいに、てかすが

ふえていく。

どうぞ、あきまで、

つご—よく、

天気

天気もつづけ。

雨もふれ。」

ダイ九 ツユ。

梅

梅ノ三ガキイロクナルコロニハ、マイトシ、

晝

雨ガフリツツク。雨ノフルノハ、トコロドコロデ、スロシツツチガフガ、タイテイ、六月ノナカバカラ、七月ノハジメマデ、二十日アマリツツク。コノコロヲツエトイフ。

夜

コノコロハ、晝モ、日ノヒカリヲ見ルコトガスクナク、夜モ、月ノヒカリヲ見ルコトガスクナイ。ニハニハ、コケガハエルシ、キモノヤハキモノナドニハ、カビガハエル。

サテ、コノ材木ヲキリダス人ヲソマトイフ。
 材木ヲヒイテ、板ナドニスル人ヲコビキト
 イフ。コノ材木ヤ板デ、家ヲタテルノガ大工
 デ、タシス、机、本箱ナドラコシラヘルノガサ
 シモノシデアル。

書物館蔵書

まはり。



明治三十六年九月七日印
 明治三十六年九月九日發行
 明治三十七年二月四日翻刻印刷
 明治三十七年二月七日翻刻發行

尋常小學讀本五

定價金七錢五厘

著作權所有

著作權者

文部省

翻刻者

柳原喜兵衛

大坂市東區北久太郎町四丁目番外貳拾貳號

印刷者

大橋光吉

東京市小石川區久堅町百八番地

印刷所

會社博進社

東京市小石川區久堅町百八番地

東京市日本橋區新右衛門町拾六番地

發行所

日本書籍株式會社

明治三十七年二月三日
 文部省檢査濟

もくろく。

第一	京都市	一	第十二	新年のいはひ	四十九
第二	織物	四	第十三	商業	五十二
第三	稻かり	十一	第十四	銅と鐵(一)	五十八
第四	鎌倉	十六	第十五	銅と鐵(二)	六十三
第五	元寇	二十一	第十六	鬼	六十七
第六	石炭ト石油	二十四	第十七	草木ノカケクラベ	六十九
第七	ろーそくの話	二十七	第十八	明治二十七八年戰役(一)	七十三
第八	大坂市	三十五	第十九	明治二十七八年戰役(二)	七十七
第九	豊臣秀吉(一)	三十九	第二十	臺灣	八十一
第十	豊臣秀吉(二)	四十三	第二十一	北白川宮	八十五
第十一	としのくれ	四十六	第二十二	砂糖ト塩	八十八

第

131

1

1-6

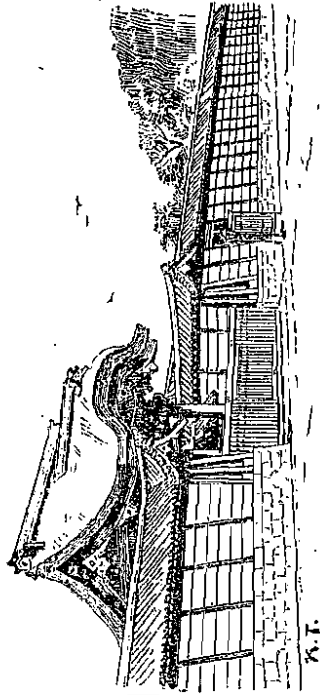
年

市

第一

京都市

京都市ハ桓武天皇ノ時カラ今上天皇陛下



ノ東京市ニオウツリニナタ
時マデ、一千年アマリノ間天
皇ガ、ヒキツツイデ、オイデニ
ナタトコロデアル。

京都市ニハ、天皇ノオイデニ
ナタ皇居ヲハジメトシテ、ア

圖

代金

お手紙をくださりまして、あ
りがたうござります。お返し
めいわくなことだらうとは
おもひますが、どうぞしるち
りめんを、一匹^{ひき}か^かてきていた
だきたうござります。ねだん
は、二十圓までのもので、よろ
しうござります。その代金は、

このつかひにもたせてあげ
ましたから、おうけとりくだ
さい。

十月二十六日

梅田春吉

青木一郎様

第三 稻^{いね}かり。

ある日、太郎は、おとうさんと、町はづれの田
のそばを通^{とほ}た。田には、もう、稻^{いね}かみの^{かみ}て、き、

稻

ろくなてゐた。そして、あちでも、こちでも、い
そがしさらに、それをかてゐた。

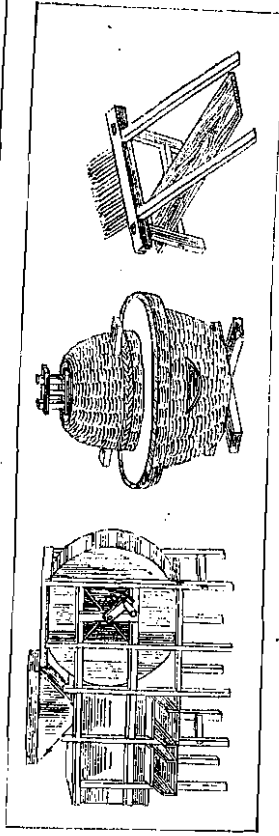
太郎は、しばらく、めづらしさらに、見てゐた



が、やがて「おとうさん。あの人た
ちは、稻をかて、どうするのです
か。」とたづねた。おとうさんは「稻
をかて、それから、米をとるので
す。」とこたへた。

太郎は、また「おとうさん。稻をかて、それから、
どうして、米をとるのですか。」とたづねた。お
とうさんは「それは、なかなか、てかずをかけ
て、とるのです。」といて、次のよーに、話した。

「まづ、あの人たちのよーにして、稻をかて、
それを、日に、かわかします。そして、その稻
がかわいた時に、いねこきといふもので、
そのみをこきおとします。このみをもみ



といひます。

それから、このもみをすりうすといふもので、ひいて、もみがらをとると、米になります。しかし、すりうすで、ひいたばかりでは、まだ、米に、もみがらがまじつてゐたり、ぬかがついてゐたりしますから、また、とーみといふもの

であふたりうすで、ついたりします。さらすると、はじめて、わたくしどものたぐゐる米になるのです。」

太郎は、この時から「米をとるには、たいそ、てかずのかかるものだ。」といふことを知った。そして「米は、ひとつふでも、そまゝにしてはならんものだ。」とおもつた。

○田のそばを通た。

田のそばを通りたり。

田のそばを通れり。

○稻のかわいたときに、そのみを、いねこきといふもので、こきおとす。

稻のかわきたるときに、そのみを、いねこきといふものにて、こきおとす。

稻のかわけるときに、そのみを、いねこきといふものにて、こきおとす。

第四 鎌倉。

フルイ社ヤ、寺ガアッテ、名高イノハ、京都市ト奈良市トデアル。京都市ト奈良市トノヨ一ニ、フルクハナイガ、社ヤ寺ガアリ、奈良市ノヨ一ニ、大佛モアッテ、名高イノハ、鎌倉デアル。鎌倉ハ、三方トモ、山ニトリマカレテラッテ、一方ハ、海ニツツイテラル。アマリ、ヒロイトコロデハナイガ、ムカシ源頼朝トイフ大將ガヲッテカラ、二百五十年ホドノ間ハ、ズイブン、

砂

製スルニハ、マヅ、田ニニタルモノヲツクリ
テ、砂ヲシキ、コレニ海ノ水ヲカクルナリ。カ



クテ、日ニサラセバ、塩カタマリ
テ、砂ニツク。ウレヲノ用フル塩
ハ、コレヲ海ノ水ニテ、トカシ、カ
マニテ、ニツメタルモノナリ。

塩ハ、ワガ國ヨリ、多ク出ツレバ、
外國ヨリ、買ヒ入ルルコトスクナシ。
をはり。

明治三十六年十二月廿六日印刷
明治三十六年十二月廿八日發行
明治三十七年二月廿八日翻刻印刷
明治三十七年三月二日翻刻發行

尋常小學讀本卷六

定價金八錢五厘

著作權所有

發行者兼

文部省

發行 者 刻

吉岡平助
大原市東區後所四丁目七番八番屋敷

印刷 者

大橋光吉
東京市小石川區久堅町百〇八番地

印刷 所

會社博進社
東京市小石川區久堅町百〇八番地

明治三十七年二月七日
文部省檢査
瀆

發行所

東京市日本橋區新右衛門町拾六番地

日本書籍株式會社

新編國語讀本

21

もくろく。

第一	春の遊。	一	第十三	鳥ノ巢。	四十三
第二	四季。	二	第十四	停車場。	四十五
第三	なまけもの。	四	第十五	貿易。	五十
第四	三つのちよーちよ。	八	第十六	開港場。	五十二
第五	刺。	十三	第十七	神戸からの電報。	五十五
第六	日本の景色。(一)	十五	第十八	航海の話。(一)	六十一
第七	日本の景色。(二)	十八	第十九	航海の話。(二)	六十七
第八	公園。	二十四	第二十	燈臺。	七十三
第九	かはさうな女の子。	二十八	第二十一	琉球。	七十四
第十	人ハカラダ。	三十一	第二十二	寒暖計。	七十六
第十一	煙草と酒。	三十五	第二十三	小太郎の日記。	八十二
第十二	石と豆。	三十八			

桃

第一 春の遊。
お庭に桃がさいてゐる。

お庭のききで、

女の子どもがまりつきあそび。

まりをつく音ぽんぽんぽん。

かすをよむこゑひーふーみー。

小山に櫻がさいてゐる。

小山の上で、

男の子どもがくいたにあそび。

櫻

聞

「いえ。いえ。にいさんや弟をぬれさせておいて、どうして、わたくしばかり、らくができません。ぬれさせるくらゐなら、いっしょに、ぬれます。」

かう、いつて、また、とんで行きました。

お日様は、これをお聞きになつて、「さで。さで。かんしんなきやーだいだ。なかのよいきやーだいだ。」とおっしゃつて、にはかに雨をはらしてくださいました。そして、もとのよーに、よい天氣にしてく

喜

ださいました。

ちよーちよは、喜んで、おもしろく、遊びました。花から花へ、ひらひらと、まひました。

第五 茶。

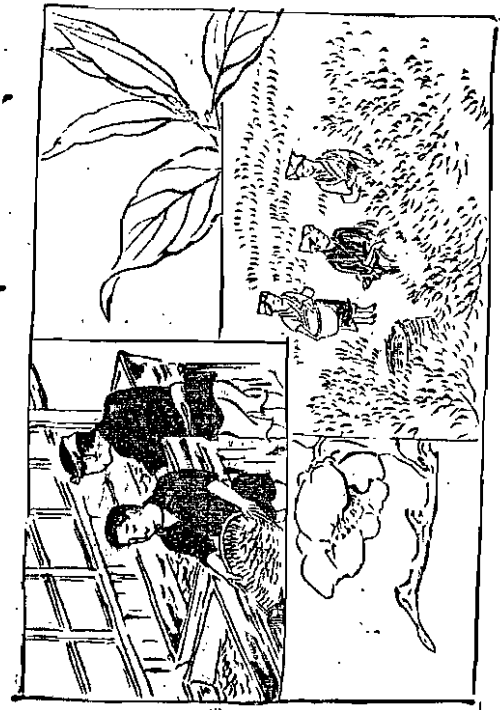
葉

成長

茶ハ、茶ノ木ノ葉ヨリ製ス。茶ノ木ハ、多ク、暖ナル國ニ成長シ、ソノ高サ五六尺ニスギズ。葉ハ、年中、青ク、秋ニナリテ、白キ花ヲヒラク。茶ヲ製スルニハ、五月コロ、新芽ヲツミトリテ、セイロトイフモノニテ、ムシ、次ニ、ホイロト

取

イフモノニカケテモ三十
ガラカワカスナリ。カクテ、
ソノ葉ノジューゲン、カワキ
タルトキ、取り出シテ、カメ、
マタハカンニ入レ、空氣ノ
カヨハヌヨーニシテ、タク
ハヘオク。コレ、アレヲガ用
フル茶ナリ。



茶ハ、ヨキホドニ用アレバ、氣ヲハラシ、ツカレ

旅

ヲナホスモノニテ、アレヲガ、シゴトニアキ、旅
ニ、ツカレタル時ナドニハ、用ヒテ、ヨーノーア
ルモノナリ。

第六 日本（けいしょ）の景色（いけしき） (一)

縫

おはなの母が、おくのまで、縫物（ぬいもの）をしてゐまし
た。おはなは、お茶を出して、「おかあさん。お茶を
おあがりなさいませ。」といひました。母は、「あり
がたう。」といつて、飲みました。そして、「もう、縫物
もすみましたから、何か、お話をしてあげませう。」

學校からの歸に、人が稻をかつてゐるのを見た。
 歸つてから、おとうさんにお話したら「うちでも、
 あしたから、かりはじめるつもりだ」とおっしゃっ
 た。ぼくも、あしたは日曜日だからぼくのでき
 ることだけは、おてっだひするつもりだ。

をはり。

明治三十六年九月二十二日 印刷
 明治三十六年九月二十五日 發行
 明治三十七年一月十五日 翻刻印刷
 明治三十七年一月十八日 翻刻發行

著作権所有

著作權者
發行者

尋常小學讀本七

定價金 八 錢

文 部 省

柳 原 喜 兵 衛

大坂市東區北久太郎町四丁目外貳番屋敷

翻 行 者 刻

印 刷 者

大 橋 光 吉

東京市小石川區久堅町百八番地

印 刷 所

鈴 屋 博 進 社

東京市小石川區久堅町百八番地

東京市日本橋區新右衛門町拾六番地

日 本 書 籍 株 式 會 社

發 行 所

日二十月一年七十三治明
 濟查檢省部文

平成 7 年 11 月 30 日
 受入先 松本市 獲得
 桐原 義司
 舊文旧開智学校

95-175

第一	郵便。	一	第十一	老人の話。(二)	四十
第二	新聞紙。	六	第十二	老人の話。(三)	四十六
第三	おふみの慈善。	九	第十三	明治維新前明治維新後。	五十二
第四	貯金。	十四	第十四	わが帝國。	五十九
第五	工業。	十八	第十五	北海道移住者の話。	六十四
第六	焼物と塗物。	二十二	第十六	ワガ國ノ物産。	六十八
第七	武雄の入營。	二十六	第十七	選挙。	七十三
第八	軍人。	三十	第十八	帝國議會。	七十七
第九	赤十字社。	三十一	第十九	地球。(一)	八十二
第十	老人の話。(一)	三十四	第二十	地球。(二)	八十八

第一 郵便。

ある夜小太郎のうちではみんながらんぶのそばでかはるかはる話をしてゐた。今度は父の番であつた。ところへ郵便が來た。それは正雄の父から來た時候みまひのはがきであつた。父は「お話をする前に」といふで、すぐその返事を書いた。小太郎はそれを近所の郵便函に入れて來た。父は

國長野縣東筑前郡金村字松岡
 國長野縣東筑前郡金村字松岡
 國長野縣東筑前郡金村字松岡

國長野縣東筑前郡金村字松岡
 國長野縣東筑前郡金村字松岡
 國長野縣東筑前郡金村字松岡

松岡

明治三十七年一月二十日印
 明治三十七年一月二十二日發
 明治三十七年三月二十日翻刻印刷
 明治三十七年四月二日翻刻發行

著作權所有

發行者兼

文部省

省

明治三十七年三月十日
 文部省
 文部省

翻刻者

龜井忠一

東京市神田區裏神保町一番地

印刷者

大橋光吉

東京市小石川區久堅町百八番地

印刷所

博文館印刷所

東京市小石川區久堅町百八番地

發行所

日本書籍株式會社

東京市日本橋區新台町四丁目六番地

尋常小學讀本八

昭和

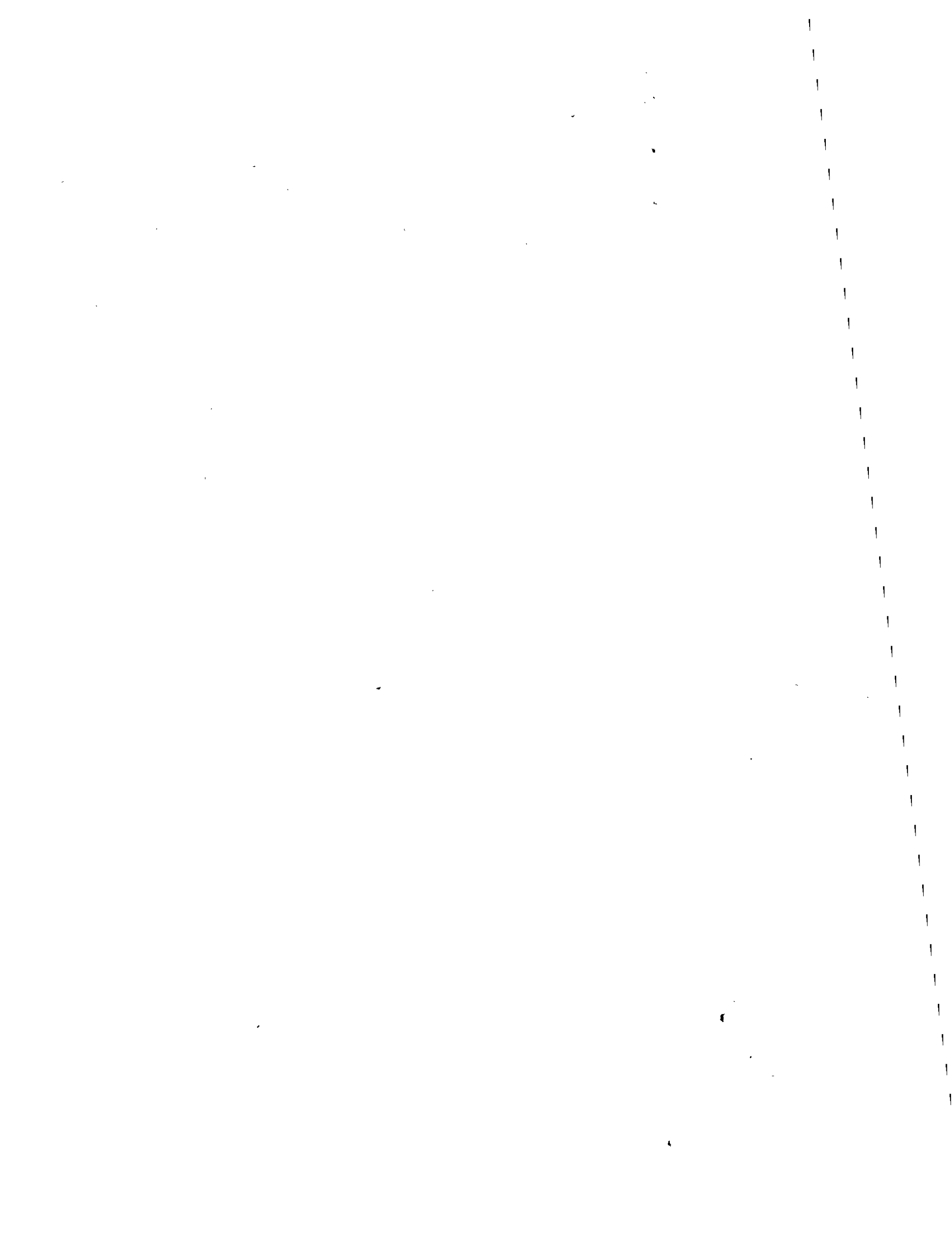
58

第15卷贈

定價金九錢

松本市岡田西田

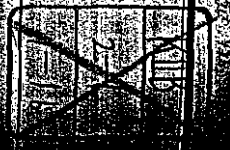
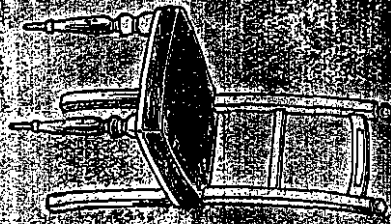
小林義忠



二



一



此物係由外國運到

此物係由外國運到

此物係由外國運到